



後世若君國等
 物谷比迄後後
 方評本物後後
 徳成以身國の文
 是而心二高如
 先主沈海濱
 神年毛由元
 快因の
 人新比心
 用出等ハ
 出等者方
 造物の傳也



出舞舞者有可之
造海の懐に
此有物曰
之つとん
つかへ
高麗書
律書教
又れ何事
元中
さう地
況の法
柳山社
の沈
沈

先づこの通り
由来の音に
讀むとすれば
減りゆくを
有る角の何れ
有りては
いと中々
凡そ此の
所は来りし
事かなれば
其所を
勘出せば此
況の法
此の法
此の法
此の法

海峽人音

先之者道

只

海峽

思行先

若下

下后根岸屋

良在
成方此



霜葉方に爛斑の候筆硯益御清剛奉恭賀候陳
者豫てより例月相催ふし來り候文學會事今
般更に一振弘張の道を開き度來る十六日午
後六時より萬世橋内萬代軒に於て本會前途
の事ども篤と御協議申上度候間何卒萬障御
差繰御同好の士御誘引の上御貴臨を辱ふし
度此段御案内申上候草々頓首

一會費として金五拾錢御持參を要する事
一御出席の有無は民友社まで十五日限り
御通牒を要する事

十一月十四日

朝比奈 知 泉
德 富 猪 一 郎

森田文花 様

侍 史

市所ヶ泉町百地
至因方
木村田文花様



朝比奈知泉
徳富猪一郎